

止まり木



令和7年（2025年）

8月26日発行

第19号

大阪市立野田中学校

今、できることは何か



今日からいよいよ最も長い2学期が始まりました。この夏休み中には全国各地で水難事故が多発し、かけがえのない命をなくした人たちがいました。本当に残念です。だからこそ、みんなは命をさらに大切にして欲しいと心から思います。以下、今日の始業式でお話しした内容を改めて紹介します。

「2学期始業式 校長講話」

今日から2学期がスタートします。みんなはどんな夏休みを過ごしましたか。大きな事故や事件に巻き込まれることなく、今日こうして集えたことを本当にうれしく思います。1学期の終業式でお話したことを見ていますか。**ポジティブな考え方・プラス思考になる言葉や行動を大切にして、前向きな考え方で夏休みを有意義に過ごして欲しい**と言いました。できたでしょうか？この夏休み、まさにそんな生き方をしている人を目（ま）の当たりにしました。それは、今年の夏の高校野球、甲子園大会の中で知りました。大きな話題になったので知っている人、見た人もいると思います。

それは、岐阜県代表、県立岐阜商業高校の横山選手です。

横山選手は外野手で、3年生です。生まれつき左手の指がないというハンディキャップを抱えながらも、レギュラーの座をつかみ、甲子園への切符を手に入れ、さらには大活躍した選手です。

横山選手は、日大山形高校との初戦で2安打を放ち、東海大熊本星翔戦でも1安打を放ちました。右翼の守備では、右手にはめたグラブで安打を捕球すると、すぐにグラブを上半身と左腕の間に抱え、グラブ内のボールを右手で握ってバックホームへ送球しました。

横山選手のプレーを見た高校野球ファンからは、「尊敬しかない」「本当に勇気をもらう」といった声が上がっていました。監督もチームも彼を特別扱いすることなく、それがまた、チームにいい影響を与えたといわれています。残念ながら準決勝で敗れたものの、毎試合、大きな感動を与えてくれました。

彼は言います。

「自分みたいなハンディを背負っていても、関係なくできるんだぞっていうところを甲子園の舞台でもしっかりアピールして、ハンディを抱えた子たちにも勇気や希望を持って自分でも出来ると思ってもらえるようにプレーしていきたい。」と。

きっと絶望的な気持ちになることも何度もあったと思います。思うようにいかず、悔しくて悔しくて泣いたこともあるかと思います。それでもそのマイナスの感情をポジティブな気持ちに変え、**ものすごい覚悟と努力を続けたことでこのような結果を残すことができたのではないでしょうか。**

では、みんなはどうでしょうか？頑張れる条件が整っている人のほうが多いのではないかでしょうか。

できない理由を探すより、できるために「今できることは何か」「今すべきことは何か」ということを考えてほしいと思います。2学期はたくさんの行事があり、そんな力を発揮する絶好のチャンスです。

一人一人が着実に成長できる2学期にしていきましょう。

関西万博訪問が近づいています！

連日、大変な賑わいを見せている関西万博に野田中学校も9月25日にいよいよ訪問します。最近では、13日午後9時半ごろに万博会場と直結する大阪メトロ中央線が、停電の影響で一時全線で運転を見合わせるという事故がありました。来場客の多くが夢洲駅周辺に集まるという滞留が発生。多くの帰宅困難者が、会場内で一夜を明かしました。私たちが訪問するときにも何が起こるかわかりません。今後、各学年で事前の学習や約束事の確認があるかと思いますが、しっかりとルールを守って、存分に楽しみ、貴重な経験ができるように準備をしてほしいと思います。いい思い出を作りましょう。

